

農業を明るく照らす『農テラス』

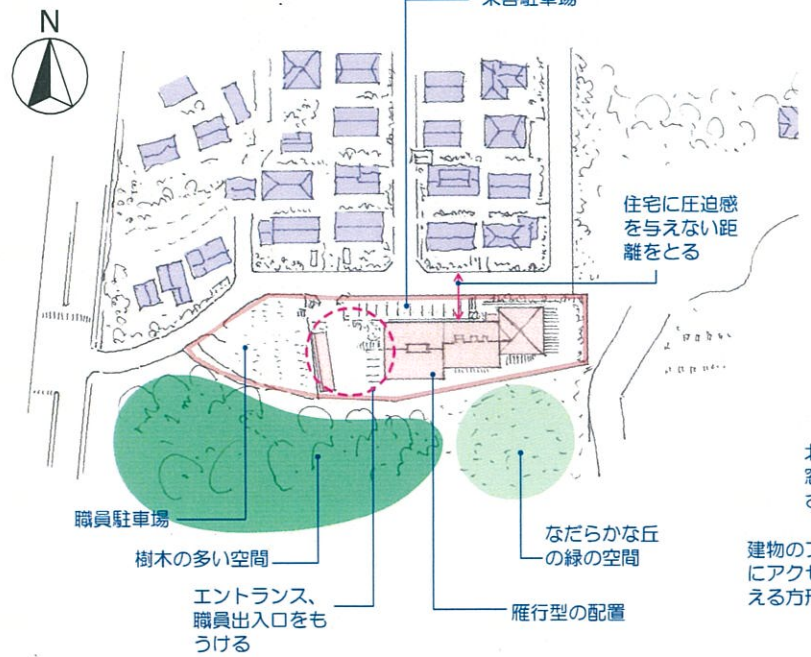
・・・食文化を守るために・・・

農業の構造変化は速く、過去15年間で農家数は半減し、現在の従事者は67.9歳と高齢化しています。農家の減少と高齢化が続く中、新しく農業の担い手を確保し育成する、ITなどを利用した農産物の管理や農業経営など、課題に適切に対応する普及指導が求められています。また、地域の人々とコミュニケーションし、「農」への関心を高める交流の場として、気軽に訪れ、相談しやすく、指導者が活動しやすい施設『農テラス』をつくります。

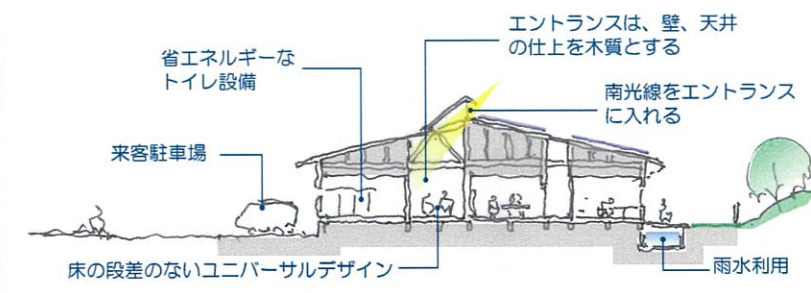
周辺地域と共生する施設の在り方に関する提案 配置について

■建物は近隣の住宅地、まわりの樹木など、自然環境に配慮した配置とする。

- ・建物は敷地の有効利用を考え、雁行型の配置とします。
- ・道路からの入り口は、職員駐車場に近い西側にもうけます。
- ・建物は北側の住宅に圧迫感を与えないよう配置し、外観等に配慮します。



周辺の街並みと調和した建物の配置イメージ

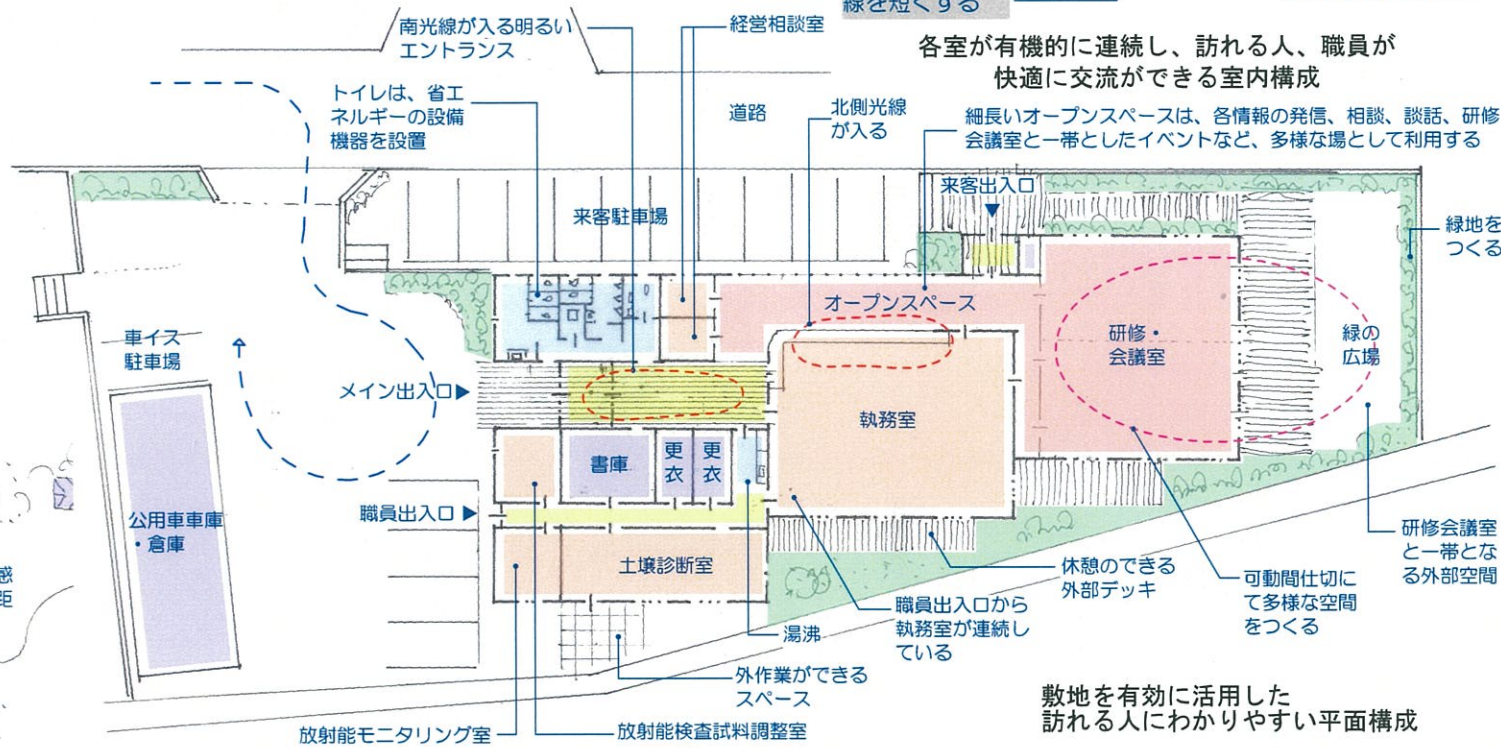


エントランス周辺の断面イメージ

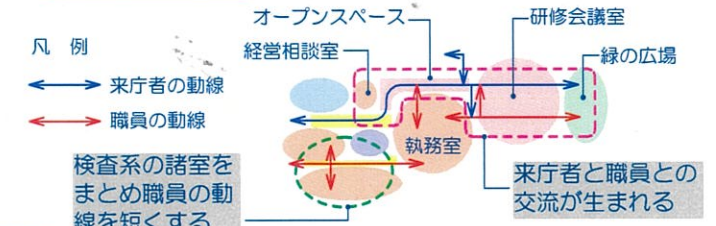
平面について

■まわりの自然環境を活かした快適な執務空間、外部に開かれたオープンスペースをもうけ、人々が気軽に交流する地域コミュニティの場をつくります。

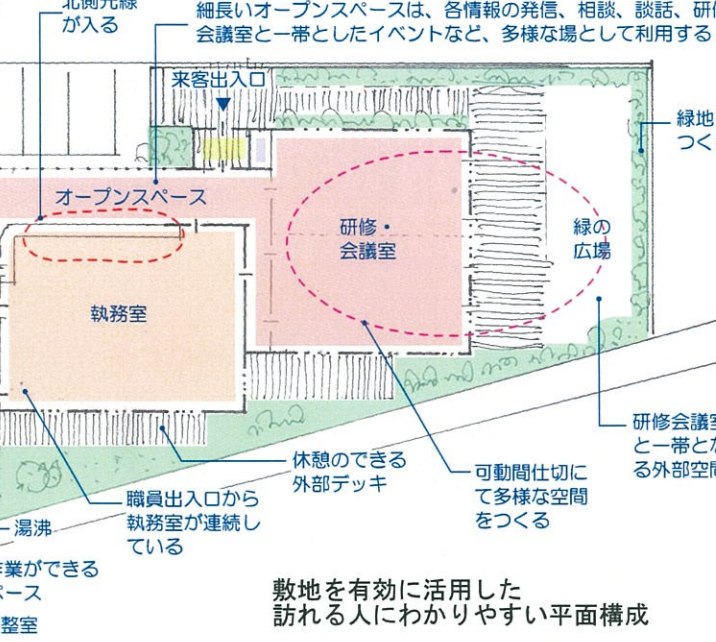
- ・南側の敷地に沿って雁行型の建物は、開放的な緑の空間に沿って自然採光の入る明るく風の通る執務空間、研修会議室をもうけます。
- ・土壌診断室など、検査の各室は樹木による採光の少ない西側に配置します。
- ・エントランスから執務室へは、天窓から光線の入る明るい空間をつくります
- ・職員入口から廊下に沿って、検査の各室、書庫、更衣室、給湯室をもうけ、執務室と連続します。



- ・執務室、研修会議室を連続するオープンスペースは、開放的な空間をつくり、各情報の発信の場、気軽に訪れる人々に相談に応じるなど、地域コミュニティの場をつくります。
- ・研修会議室は、多様な研修、会議に対応できる可動間仕切をもうけます。内部空間と外部の緑の広場と一帯として利用できます。

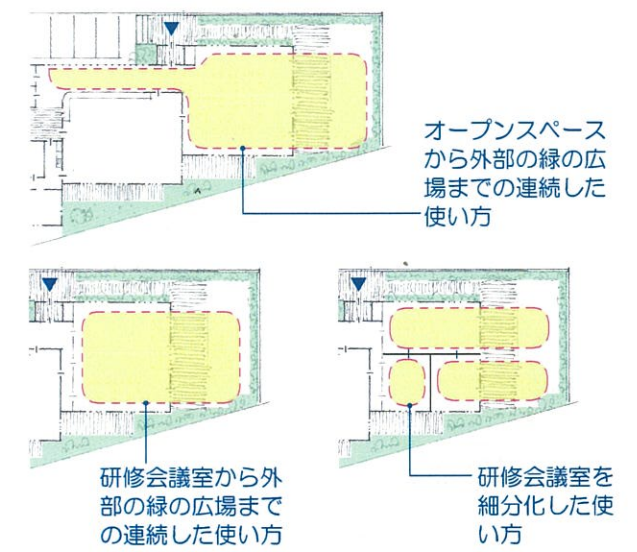


各室が有機的に連続し、訪れる人、職員が快適に交流ができる室内構成



次世代の農業普及所としての施設機能の実効性確保に関する提案

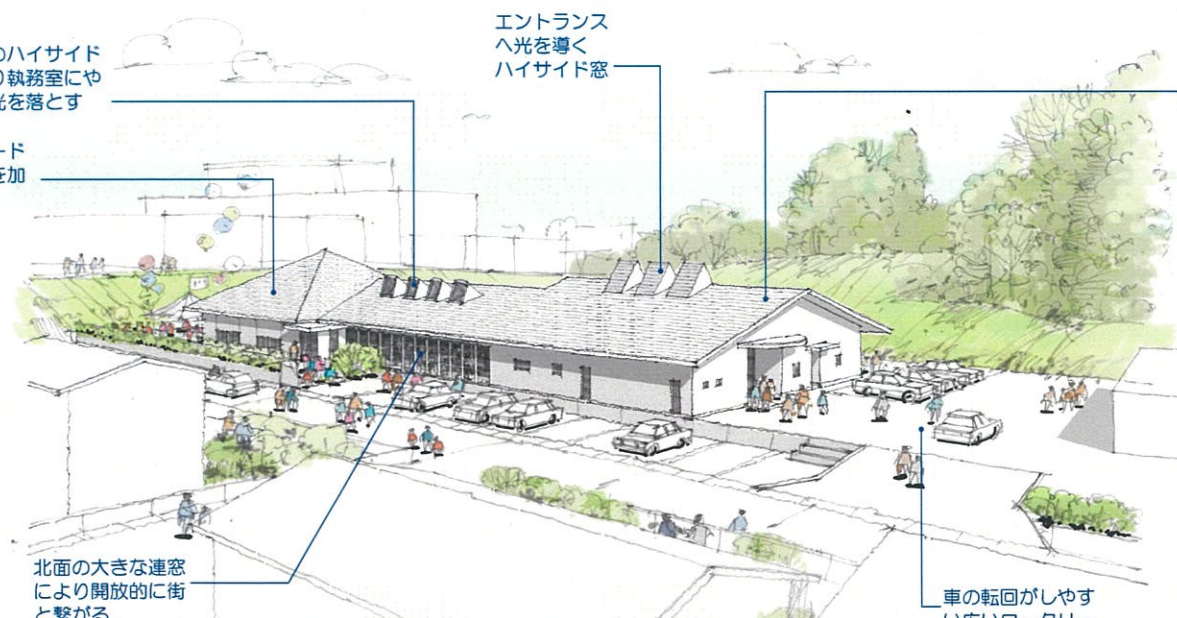
- ・研修会議室にはフレキシブルに室を区切る可動間仕切壁を設置し、限られた面積を有効利用します。
- ・執務室とオープンスペースはカウンターで緩やかに仕切ること、視覚的に一体的な空間とします。



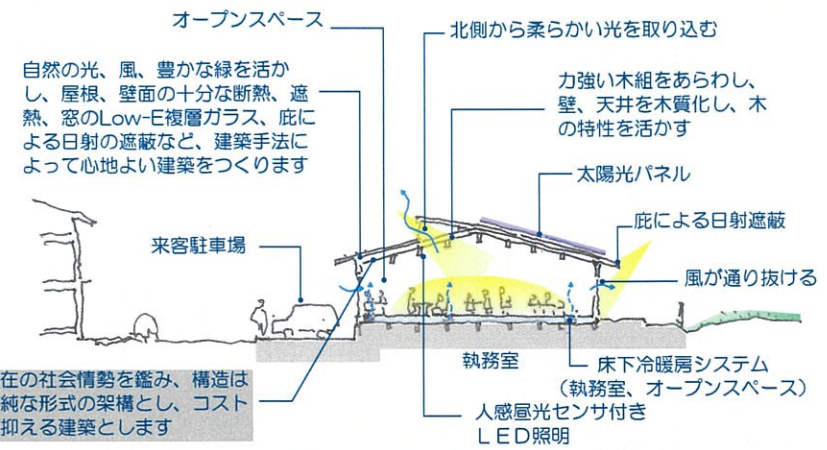
多様な使い方ができる研修会議室のイメージ

その他本施設の計画において特に重要と考える提案

- ・「木造」の力強さを表現する構造体とします。柱、天井など、木の架構を美しくデザインします。
- ・執務室、オープンスペース、エントランスなど、壁、天井に木を使用し、「ぬくもり」「あたたかみ」「肌ざわり」など、『木』の持つ特性を活かした快適な環境をつくります。
- ・LCCを抑えた、長寿命化の建物とします。
- ・自然エネルギーの使用、省エネルギー化、維持管理のしやすさなど、NearlyZEB化を目指した建物とします。
- ・誰にでもやさしいユニバーサルデザインな建物とします。誰にでもわかりやすい室の配置、サイン計画、トイレの設備など、きめ細かなデザインとします



周辺地域に開かれた圧迫感のない建物イメージ



執務室、オープンスペース周辺の断面イメージ